

1. 題目

三瓶の風景

2. 対象もしくは対象の状態（数値等）

吉栗山から望む三瓶山（距離：13km）  
(310m) (1,130m)

3. 場所

吉栗山：出雲市佐田町一窪田  
(出雲市佐田町窪田コミュニティーセンターの西約 500m)

4. オモシロそうな理由

三瓶山（男三瓶）の頂上は大田市三瓶町と山口町の境となっています。今の山口町は昭和23年より前には、簸川郡の山口村の一部でした。山口村は、風土記の時代には神門郡（かんどごおり）の餘戸里（あまりべのさと）であり、旧出雲国に他なりません。

三瓶山の頂はかつて出雲の国と石見の国の境界であり分水界でした。

今年、「古事記」編纂1300年の記念すべき年で、21年後には「出雲国風土記」の編纂1300年を迎えます。その「出雲国風土記」には、吉栗山は出雲大社の材を造った山との記載（所謂「天下大神宮」材造山也）があり、三瓶山は国引きの杭の役割を果たした山（堅立加志者、石見國興出雲國境、有名「佐比賣山」是也）とされています。[加志＝杭、佐比賣山＝三瓶山]

約1300年前の書物に記載された二つの山を相眺めると、時空を越えた感動を覚えます。また、その景観は島根の風土にあって、あまり例のない山岳風景ではないでしょうか。

5. 応募者

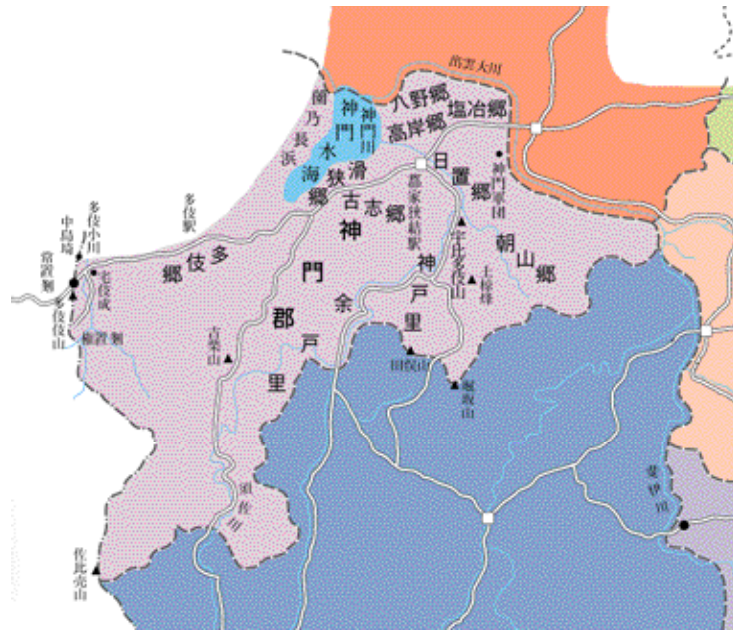
石崎 正信 建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）  
出雲市佐田町東村

6. 備考





(吉栗山から三瓶山を望む／右は窪田小学校)



神門郡と郷・里